

不当処分撤回！ ジェット延長提案強行抗議！ 1/8~9 全取場から怒りの減産闘争に決起



81.1.12
No. 629

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公電)五三二七・二〇七

銚子支部「デッチ上げ」再建」策動粉碎行動と固く結合し

「布施組織部長不当解雇撤回・ジェット延長提案強行抗議」を闘いの目標とした一月八・九日のわが動労千葉の減産闘争は、国鉄当局・右翼分子の挑発・介入を粉碎して全支部・全線区で断固とした怒りの決起をもって貫徹された。

われわれは、この一・八・九の減産闘争を動労「本部」革マル反動分子と結託した石毛(一)、大川ら銚子内一部右翼悪質分子による「業務再雇」に銚子支部デッチ上げ「再建」粉碎行動とあわせて闘い抜いたのである。一・八・九減産闘争の圧倒的貫徹をもって813闘争へむけた一月総決起行動の才一歩は確実に切り拓られた。

全取場から怒りの決起開始

一月総決起行動の才一歩としての一・八・九減産闘争は、「動労千葉結成以来の総力をあげた闘いに決起する」ことを確認した一月六日の才二回支部代から二日、激動の81年の幕開けにふさわしい闘いとして全支部・全線区で圧倒的に闘い抜かれた。動労千葉の断固たる闘いの決意は連日房総半島はもとより東京都心、更には横須賀線を通じて神奈川県下の動脈をもゆるがした。

昨年末以来、「813」をめぐる情勢は、一日と緊迫化してきていた。
12月23日——銚子支部執行委員会、10・27臨大決定(銚子は中立・現状維持)をくつがえし、「銚子はもともと動労の組合員」「業務再雇」を採決で強行。
12月24日——当局、布施組織部長への不当解雇処分を発令。
12月25日——不当処分強行発令抗議闘争、こうした動きに加えて、国鉄当局は年末のギリギリまでジェット延長提案強行を策動。(当局と動労本部革マル反動分子銚子内悪質分子の結託は明らかである。)

1月8日——当局、ジェット延長提案を強行。動労千葉・国労千葉地本これに拒否。(鉄労と動労本部津田沼事務所が提案をうけた。)8日・9日動労千葉減産闘争に突入。このような中で、乗務員の闘いは、初日計三四〇分、二日目計四四〇分の列車遅延を現出し、地上勤務者の闘いも幕張津田沼・佐倉成田・新小岩・木更津などの検修取場

で闘いぬかれ列車への影響を出すなど怒りにもえた闘いが貫徹された。
特に二日目の9日には、千葉駅前に右翼分子が登場し、わが動労千葉の減産闘争に対し、すまらば挑発し、介入せんとしてきたが、われわれの圧倒的な闘い決意と断固たる闘争体制の前に一指もふれることができなかったのである。

一月総決起行動の更なる高揚へ

われわれは1・8・9減産闘争の貫徹に引き続き、銚子支部デッチ上げ「再建」策動粉碎の闘いへ総力で決起しなければならぬ。とりわけ、「支部臨時大会を開け」という多くの組合員の全く当然の声を踏みにじって、執行部独裁のファシヨ的やり方で、一月二〇日には「本部」革マル反動分子に納めるための「組合費」をペテン的に徴収しようというデタラメな策動を絶対に粉碎し、臨大闘争を勝ちとり、組合ルールに則った正しい方向で石毛(一)、大川らの右翼悪質分子の暴力支配を打ち破らなければならぬ。

一月十四日「団結旗びさき」に総結集し、全組合員による一月総決起総行動を更に高揚させ、銚子決戦勝利、1・24全国総決起集会、1・25全国労働者集会の圧倒的成功をもって、二月助役株闘争導入阻止闘争へとさらに闘いぬこう。

1/8~9 減産闘争の成果

1月9日		1月8日		線区
遅延本数	列車遅延時分	遅延本数	列車遅延時分	
	515分	338分		総武快速線
6本	937分	2本	758分	総武緩行線
	190分	163分		総武本線
	1,403分	1,150分		成田線
	803分	510分		外房線
	438分	430分		内房線
	120分	99分		木原線
6本	4,406分	2本	3,448分	合計